

様式1

| | |
|--------|------------------------------|
| 大学等名 | 相模女子大学 |
| プログラム名 | 全学共通科目 数理・データサイエンス・AI教育プログラム |

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

「数理の科学」(半期2単位)の修得をもって、プログラムの修了要件としている。「数理の科学」の内容は「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」(数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)に準拠しており、各回、対面形式で開講するとともに、授業支援ツール(LMS)を用いて事前・事後学修の支援をしている。

| | | | | |
|-------------|------|------|---------|------------------------|
| 必要最低科目数・単位数 | 1 科目 | 2 単位 | 履修必須の有無 | 令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定 |
|-------------|------|------|---------|------------------------|

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-1 | 1-6 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-1 | 1-6 |
|-------|-----|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------|-----|----|-----|-----|
| 数理の科学 | 2 | <input checked="" type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-2 | 1-3 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-2 | 1-3 |
|-------|-----|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------|-----|----|-----|-----|
| 数理の科学 | 2 | <input checked="" type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-4 | 1-5 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 1-4 | 1-5 |
|-------|-----|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------|-----|----|-----|-----|
| 数理の科学 | 2 | <input checked="" type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

⑦「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上の留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 3-1 | 3-2 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 3-1 | 3-2 |
|-------|-----|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------|-----|----|-----|-----|
| 数理の科学 | 2 | <input checked="" type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 必須 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 授業科目 | 単位数 | 必須 | 2-1 | 2-2 | 2-3 |
|-------|-----|----|-----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|-----|
| 数理の科学 | 2 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

| 授業科目 | 選択項目 | 授業科目 | 選択項目 |
|-------|--------------|------|------|
| 数理の科学 | 4-1統計および数理基礎 | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

⑩ プログラムを構成する授業の内容

| 授業に含まれている内容・要素 | 講義内容 | |
|---|------|--|
| (1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている | 1-1 | ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたもののみ方(1回、3回) この科目的初回に導入として、データを起点としたものの見方について、数理・データサイエンス・AIを学ぶ必要性を伝える。また、確定的に考えるのではなく、確率的に考える事を学ぶ。(1回、3回) |
| | 1-6 | ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)(15回) この科目の最終回では、それまでの内容をAIや機械学習との関係からまとめ、AI最新技術の活用例の動向を紹介する。(15回)□ |
| (2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの | 1-2 | ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど(2回) 社会で活用されている調査データや機械の稼働ログデータから、確率(離婚率や故障率など)がどのように算出されているか学ぶ。(2回) |
| | 1-3 | ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)(11回、12回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど(11回、12回) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など(7回) 仮説検証の基礎となる帰無仮説について学ぶ。(7回) 販売、マーケティングにおいて、広告費を増額すると売上高がどうなるかという事例からデータ・AI活用領域の広がりを学ぶ。(11回、12回) |
| (3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの | 1-4 | ・データ解析:予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など(6回) 天気図の予報円を例に、標本データから母集団の特性を予測する方法について学ぶ。(6回) |
| | 1-5 | ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介(8回) 工場で製造される製品の精度の評価について学ぶ。(8回) |

| | |
|--|---|
| (4) 活用に当たっての様々な留意事項 <small>(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上で留意事項への理解をする</small> | 3-1 <ul style="list-style-type: none"> ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(15回) ・データ・AI活用における負の事例紹介(15回) <p>データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護など、データ倫理について学ぶ。(15回) データ・AI活用における負の事例紹介を取り上げ、データ・AI活用の限界について学ぶ。(15回)</p> |
| | 3-2 <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性(15回) ・情報漏洩等によるセキュリティ自己の事例紹介(15回) <p>情報セキュリティについて学ぶ。(15回) 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介を通じて、データを扱う上で注意点について学ぶ。(15回)</p> |
| (5) 実データ・実課題 <small>(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</small> | 2-1 <ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)(13回、14回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(2回、4回) ・観測データに含まれる誤差の扱い(14回) ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)(10回) ・母集団と表法抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)(5回) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列(13回、14回) <p>データの種類(量的変数、質的変数)について学ぶ。(13回、14回) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)について学ぶ。(2回、4回) チョコレートの消費量とノーベル賞の受賞数を例に、相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)について学ぶ。(10回) 街頭アンケートを例に、母集団と標本抽出について学ぶ。(5回) 健康診断の有無により、医療費が節約できるかクロス集計表で評価することを学ぶ。(13回、14回) 観測データに含まれる誤差の扱いについて学ぶ。(14回)</p> |
| | 2-2 <ul style="list-style-type: none"> ・データの比較(条件をそろえた比較、処理前後での比較、A/Bテスト)(9回) <p>工場での製品生産の精度を例に、データの比較について学ぶ。(9回) データの比較においてRCTの重要性について学ぶ。(9回) グラフとしてデータ表現することで、外れ地を発見する。(10回)</p> |
| | 2-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)(2回) ・データ解析ツール(スプレッドシート)(2~14回) <p>データの集計(和、平均)について学ぶ。(2回) データ解析ツール(スプレッドシート)を用いた演習に取り組む。(2~14回)</p> |

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

ICT(情報通信技術)やAI技術の急激な発展・普及に、正しい知識を持って対応できるようになる。データに基づいて現状を理解でき、新しい価値を生み出すための基礎として、「データを適切に読み解ける」、「データに基づいて適切に説明できる」、「データを適切に扱える」能力を身に付ける。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

| 講義内容 |
|------|
| 該当なし |

樣式2

相模女子大学

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和5 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 □ 0 人 女性 □ 3481 人 (合計 □ 3481 人)

③履修者・修了者の実績

様式3

大学等名 相模女子大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 132 人 (非常勤) 272 人

② プログラムの授業を教えている教員数 2 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 中林 正身 (役職名) 副学長(教育担当)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

共通教育機構運営委員会

(責任者名) 中林 正身 (役職名) 共通教育機構長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

相模女子大学共通教育機構規程

⑥ 体制の目的

学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成すること、並びに、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を推進することを目的とする。

⑦ 具体的な構成員

中林 正身(機構長・副学長(教育担当)・学芸学部英語文化コミュニケーション学科教授)

石上 正也(副機構長・学修・生活支援課長)

加藤 由樹(情報教育系列部会長・学芸学部メディア情報学科教授)

後藤 和宏(自然科学系列部会長・人間社会学部人間心理学科教授)

伊東 俊彦(人文科学系列部会長・人間社会学部人間心理学科教授)

小泉 京美(社会科学系列部会長・学芸学部英語文化コミュニケーション学科教授)

上條 美和子(語学教育系列部会長・学芸学部英語文化コミュニケーション学科教授)

笹田 周作(健康教育系列部会長・短期大学部食物栄養学科教授)

富田 充保(教職課程部会長・栄養科学部健康栄養学科教授)

金井 喜一郎(司書課程部会長・学芸学部日本語日本文学科教授)

渡辺 幸倫(さがみ総合講座運営委員会代表委員・学芸学部英語文化コミュニケーション学科教授)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

| | | | | | |
|---------|-----|---------|-----|---------|-------|
| 令和5年度実績 | 1% | 令和6年度予定 | 15% | 令和7年度予定 | 25% |
| 令和8年度予定 | 35% | 令和9年度予定 | 50% | 収容定員(名) | 3,676 |

具体的な計画

本プログラムの目標達成に向けた学生のプログラム履修促進及び、数理・データサイエンス・AIを理解する必要性の認識を広げるため、学生への周知に努めている。

2023年度は、初年度という事もあり1クラス展開(秋学期のみ)で開講したが、2024年度は春学期・秋学期に2クラス展開として実施する。また、昨年度に引き続き広報にも力を入れ、より多くの学生が履修するように促していく。

2025年度の全学共通科目のカリキュラム改定では、より本プログラムの内容に即した科目（「データサイエンス」「AIと社会」等）を設置し、引き続き履修者増加を目指し、対策を進めいく。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるよう、全学共通科目の選択必修科目として開講しており、卒業単位に含むことのできる科目である。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

オリエンテーション実施時に、チラシを作成して配布する。また、学内に掲示を貼り、学生の認知度を高める。合わせて、本学のポータルサイトを用い、全学生宛てに広報連絡を実施する。2024年度の履修者数増加に向け、教授会などでも周知し、専任教員による履修相談や、情報系教員の授業等において、学生に本プログラム対象科目の履修を勧めてもらうよう、情報系に限らず全ての教員に周知し、協力を依頼していく。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

学期開始前に実施する各学科のオリエンテーション資料として紹介ちらしを配布し、全学生の目に触れるよう広報を実施している。また、本学のポータルサイトであるSmileSagamiへもデータを掲載し、いつでも情報が見られるようにしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業支援ツール(LMS)に、授業で使用する資料(動画資料も含む)、演習課題を置いて、授業時間内だけでなく、授業時間外の事前・事後学修がいつでもどこでもできるようにしている。更に、履修者全員が閲覧可能な掲示板や、一人ひとりの学生に対して個別に指導ができる個別指導コレクションと呼ばれるLMS上の機能を用いて、学生から質問や相談を受け付ける仕組みもある。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

共通教育機構運営委員会

(責任者名) 中林 正身

(役職名) 共通教育機構長・副学長(教育担当)

② 自己点検・評価体制における意見等

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|------------------------------|---|
| 学内からの視点 | |
| プログラムの履修・修得状況 | このプログラムの科目「数理の科学」は、2023年度は後期のみ開講し、履修者が31名であり、27名の単位を認定した。選択科目として内容を十分に習得した者を合格させる方針であったため、修了率はおよそ80%であったが、質の担保はされている。なお、2024年度はクラス数を増やし、前期・後期ともに開講する。更に2025年度からの新しいカリキュラムでは「コンピュータリテラシー」を全学で必修にして、すべての学生がPCの使い方を習得したうえで、「数理の科学」の内容を数理部分とAI部分に分割し、それぞれ「データサイエンス」と「AIと社会」として新たに開講するなど、このプログラムの更なる充実を予定している。 |
| 学修成果 | 情報処理室において、各回、前半は講義、後半は実際にデータを扱う演習という対面形式の授業を実施した。教員は事前に授業支援ツール(LMS)に授業資料と演習課題を置き、学生が授業中だけでなく、授業後にいつでも過去の授業内容を確認できるようにした。演習として、表計算ソフトウェアを用いてデータを分析することで、講義の内容を確認するようにした。さらに、各回の授業の終わりに学生にリアクションペーパーを提出してもらい、教員はそのフィードバックを行った。演習課題とリアクションペーパーで履修者の理解度を把握しつつ、次回の授業に活かした。各回の演習及び期末に行った表計算ソフトで行う確認課題と問題発見・解決の応用課題の結果を総合し、6割以上であることを単位認定の条件とした。 |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 | 全回終了後に実施した学修振り返りアンケートの回答者数は12件で、履修生の3分の1にとどまっていた。アンケートの回収率の低さはこの科目に限らないことであるが、今後、回収率を高める対策が求められる。回答の結果、「この授業に対してどの程度主体的・積極的に取り組むことができましたか。」「この授業の内容は理解できましたか。」という設問に対して、いずれも肯定的回答率が8割を超えていた。また、シラバスに示された到達目標に対する自己評価および、「この授業を通して、どの程度物事を深く捉えることができるようになりましたか。」はいずれも肯定的回答率が75%であった。これらの結果から履修生が意欲的に取り組み、目標を達成したと考えられる。一方、アンケート回答者数が成績優秀者に限定される可能性も含めて、今後、更なる授業改善に努める必要があるだろう。 |
| 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推薦度 | 学修振り返りアンケートでは、後輩学生等への推薦度を回答する項目はないが、「この授業を通して、どの程度物事を深く捉えることができるようになりましたか。」が「十分にできた」あるいは「ややできた」と回答した割合が75%であったことなどを踏まえると、推薦度はある程度高いのではないかと考えられる。一方、数学的な内容に苦手意識を持つ学生が本学では少なくないことも考えると、数学的な内容を教育する工夫をさらに行っていく必要はあるだろう。 |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | 2023年度の履修者は、非常に限られたものであった。2024年度はクラス数を増やし、前期・後期ともに開講している。更に2025年度からの新しいカリキュラムでは、このプログラムの基礎となる情報教育科目「コンピュータリテラシー」を全学共通科目における1年生の前期の必修として位置づけ、現在の「数理の科学」の内容を充実させ、新たに開講する「データサイエンス」や「AIと社会」へつながっていくように履修を促していく。 |

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|--|--|
| 学外からの視点 | <p>教育プログラム修了者の進路/活躍状況については、2023年度後期より設置した教育プログラムであり、今後、本プログラム修了者の卒業後の進路調査を実施するとともに、就業後一定年次が経過した時点で活躍状況を確認する。また企業等の評価についても同様である。</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | 現在まだプログラム修了者が卒業していない状況であるが、産業界および産業界出身者を外部評価委員として委嘱し、定期的に本プログラムについての評価、提言が得られる仕組みを構築する方向で検討する。 |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | 授業では、実生活での身近な例や社会の変化に基づいてデータサイエンスやAIに関する話題を提供し、単に数式や計算だけの学びと学生に捉えられないように工夫している。また、講義だけでなく、データを扱う演習を毎回取り入れることで、技術的な知識だけでなく、実際にデータを活用できるスキルを身に付けるように工夫している。 |
| 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載 | 第1回目の授業で到達目標とキーワード、授業の流れと各回の内容の積み重ねが重要であることを説明し、また各回の授業のはじめにその回で何を学ぶのかについて提示する。文系向けの授業であるため、高校までの数学の学び直しも意識しつつ、各回の前半では、学生に馴染みのあることを例にとりながら、図やグラフ、動画なども適宜使用して、視覚的にも理解できるような講義内容になるよう努めている。各回の後半では、データを扱う演習を通じて、手を動かしながら前半の講義を理解してもらえるようにしている。また、毎回の終わりにアクションペーパーを書いてもらい、学生の理解度を把握し、次回に活かしている。 |

シラバス

目 次

XA00190A 数理の科学 加藤 由樹 秋学期

・ ・ ・ 1

| | | | | |
|--|---|------------------|-----|------------------|
| 授業科目名 | 数理の科学 | | | |
| 科目区分 | 共通科目 | | | |
| 必修・選択区分 | 選択必修 | | | 単位数 2 |
| 開設学科 全学共通科目（大学）/日本語日本文学科2023/日本語日本文学科2022/ 日本語日本文学科2021/日本語日本文学科2020/日本語日本文学科2019/ 日本語日本文学科2018/日本語日本文学科2017/英語文化コミュニケーション学科2023/ 英語文化コミュニケーション学科2022/英語文化コミュニケーション学科2021/英語文化コミュニケーション学科2020/ 英語文化コミュニケーション学科2019/英語文化コミュニケーション学科2018/英語文化コミュニケーション学科2017/ | | | | |
| 学年 | 1年生 | 学期 | 秋学期 | 開講年度 2023 |
| 担当者 | 加藤 由樹 / 後藤 和宏 | | | |
| 授業の到達目標 | <p>この授業では、データサイエンスの基礎について、以下の3つの力を修得することを到達目標とします。</p> <p>(1)データを適切に読み解ける (2)データに基づいて適切に説明できる (3)データを適切に扱える</p> | | | |
| 授業概要 | <p>この授業では、データサイエンスの基礎（リテラシー）について学びます。現在ICT（情報通信技術）やAI技術が急速に発展・普及したこと、人々の行動履歴など、膨大で多様なデータ（ビッグデータ）を収集・蓄積・活用できるようになりました。これらのビッグデータを分析することで新しい価値を生み出す学問をデータサイエンスといいます。皆さんの身近な例としては天気予測や交通機関の情報など、様々なサービスがデータサイエンスによって生まれています。こうした中で、私たちが自らデータに基づいて現状を理解でき、更には未来を予測できる知識やスキルを身に付けておくことが、今後を生きるために必須になります。</p> <p>具体的には、各回の授業において、統計学の基礎的な内容について講義を行い、その後、実際に表計算ソフトウェアExcelを用いてデータ分析をする演習を行います。授業は対面を基本としますが、講義資料や演習課題用ファイルはmanabaに公開し、演習課題の提出もmanabaで行います。</p> | | | |
| 授業計画 | | 各回の授業概要 | AL | 学びのポイント |
| | 1 | 数理・データサイエンス・AIとは | | 統計学の基礎知識の体系を把握する |
| | 2 | 代表値と散布度 | ○ | データの特性を把握する |
| | 3 | 確率と期待値 | ○ | 確率的な思考を身に付ける |
| | 4 | 正規分布と偏差値 | ○ | 確率分布について理解する |
| | 5 | 母集団と標本 | ○ | 母集団と標本の概念を理解する |
| | 6 | 標本変動と信頼区間 | ○ | 区間推定について知る |
| | 7 | 背理法と帰無仮説 | ○ | 統計的検定について知る |
| | 8 | 母平均の検定 | ○ | 統計的検定について知る |

| | | | | | | | | |
|---------------------------|--------|--|---------|--------------------|---------|------|------------|-----------|
| 授業計画 | 9 | 2つの母平均の検定 | ○ | 統計的検定について知る | | | | |
| | 10 | 散布図と相関係数 | ○ | 相関関係について理解する | | | | |
| | 11 | 単回帰分析 | ○ | 一つの原因の影響を分析する | | | | |
| | 12 | 重回帰分析 | ○ | 複数の原因の影響を分析する | | | | |
| | 13 | 尺度とクロス集計表 | ○ | 4つの尺度について理解する | | | | |
| | 14 | カイ二乗検定とロジスティック回帰分析 | ○ | カイ二乗検定とダミー変数について知る | | | | |
| | 15 | AI・機械学習と統計学 | ○ | AIの仕組みを知る | | | | |
| | | | | | | | | |
| 授業方法 (回数) | | 原則すべての回で対面 | | | | | | |
| オンライン授業 実施有無 | | オンデマンド3回(予定) | | | | | | |
| 必要な 受講環境 | | | | | | | | |
| 予習 | | シラバスの「各回の授業概要」が各回の授業の主な内容のキーワードです。各回が始まるまでに、このキーワードを参考文献やインターネットなどで調べて、予備知識を持って各回の授業に臨んでください。 | | | | | | |
| 復習 | | この授業では、前回の内容がその次の回の内容に関わってきます。つまり各回の内容を理解していないと、その次の内容がわからなくなってしまう可能性が高いです。授業で学んだことを次回までに確実に理解しておくようにしてください。 | | | | | | |
| 成績評価 | 試験(%) | 0 | レポート(%) | 0 | 授業態度(%) | 0 | その他(%) | 100 |
| 成績評価 上記以外 (その他の内容等) | | 各回授業への取り組み、各回の演習課題、その他の授業中に指示した提出物などに基づいて総合的に評価する。 | | | | | | |
| 教材 | 著者名 | | 書籍名 | | 出版社 | | 出版年 | ISBN/ISSN |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 教材(その他) | | | | | | | | |
| 参考文献等 | 著者名 | | 書籍名 | | 出版社 | | 出版年 | ISBN/ISSN |
| | 河口洋行 | 『文系のための統計学入門---データ分析編』 | | 日本評論社 | | 2021 | 4535559988 | |
| | 内田誠一ほか | 『教養としてのデータサイエンス』 | | 講談社 | | 2021 | 4065238099 | |
| | 阿部圭一 | 『よくわかるデータリテラシー』 | | 近代科学社 | | 2021 | 4764906325 | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 参考文献等 (その他) | | | | | | | | |
| 先生からの メッセージ | | データリテラシーはこれからの人々にとって必須の能力です。膨大なデータの世界で生きる力を身に付けてください。この授業は見つめる科目です。 | | | | | | |
| 参考ホーム | | | | | | | | |

全学共通科目

1 全学共通科目の特色

全学共通科目は、本学の学生であれば、どの学部・学科に所属しているかに関係なく「一定水準の知識・技能・教養」が備わるよう、必修科目である「さがみ総合講座Ⅰ・Ⅱ」を中心に、体系的に履修できるように配置されています。

2 教育目標

全学共通科目は、大学での学習の基本となる思考力や基礎的なリテラシーの習得、および大学生に必須の社会的な教養の涵養という目的を持って編成されており、在学中に専攻する専門教育と連関性をもちます。

社会や企業で大学生に求められている「自分で問題を発見し、解釈していく力。自分の考えを的確に表現し、伝達する力。具体的に目標を定め、行動する力。」は、まさに本学のスローガンである「見つめる人になる。見つける人になる。」に通じるところです。バランスよく履修することを勧めます。

3 カリキュラムの趣旨と構成

■基礎共通科目（必修）

「さがみ総合講座Ⅰ」は、建学の精神、本学の歴史などの知識を習得し、相模女子大学の学生として、学部・学科を問わず身につけるべき基礎知識や教養を学び、将来のキャリアについて考えるための入口となる科目です。

「さがみ総合講座Ⅱ」は、女性の働き方や生き方の現状と、女性をめぐる様々な問題について理解し、今後のキャリアデザインのために必要な手がかりを得ることを目的としています。あわせて、ⅠおよびⅡで学んだことの中から興味ある課題を自分で選び、それについて調査・研究することにより大学で学ぶことの意味を見出します。

「基礎教育講座」は、大学での学習の基本を理解することを目的として、学科ごとに受講します。大学入学後の導入教育として位置づけられるもので、今後4年間の学習に必要な理解力の基礎を固め、基礎的なコミュニケーション力を涵養します。また各学科の専門教育のために必要となる基礎学力の補強を行い、自立的な学習を推進するために演習形式で行われます。少人数でおこなわれるゼミ形式を取る学科が多くあります。

■共通教養科目

人文科学、自然科学、社会科学の各分野から構成される教養科目群、健康・スポーツ科目群、社会人基礎力向上科目群に分かれています。教養科目群は、豊かな人間性を育成するため専門分野を越えた広い視野や知性を深めていくことをねらいとしています。また、社会人基礎力向上科目群は、言語、数理、情報に関するリテラシーを早い段階で学ぶことにより、基礎学力を身につけて専門分野の知識向上につなげることを目的としています。

■語学科目

語学科目は、コミュニケーションを行うための実用的な技術の習得を目的とするとともに、母語とは異なる言語感覚や、その言語による思考形式を通して、異文化を理解する道を拓きます。本学の語学科目は、英語、中国語、韓国／朝鮮語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、日本語の各語学科目及び認定科目である「海外語学集中講座」から構成されています。

■実践科目

実践科目は、さまざまな全学共通科目や専門教育科目を履修して習得した知識を実際に活用し、将来のキャリアを考え、社会で活躍するための能力を獲得するためのアクティブ・ラーニング科目です。教室外や学外に出て、企業や行政、非営利組織の方々と一緒に活動する機会も含まれます。

全学共通科目に関する卒業要件は以下のとおりです。記載されているのはそれぞれの科目群における最低履修単位数ですので、その単位数以上を履修してください。

| 授業科目区分 | 基礎 共通 科目 | 共通教養科目 | | | | | 語学 科目 ※ | 実践 科目 | 合 計 |
|--------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|--------------------|---------------------|---------------|----------|-------------------|
| | | 教養科目群 (人文科学) | 教養科目群 (自然科学) | 教養科目群 (社会科学) | 健康・ スポーツ 科目群 | 社会人 基礎力向上 科目群 | | | |
| 単 位 数 | 6 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 4 | — | 24 (管理栄養学科は22) |

※語学科目は同一言語のⅠ及びⅡを修得することが卒業要件となります。

履修例1.「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「中国語Ⅰ」「ドイツ語Ⅰ」合計4単位

履修例2.「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」「韓国語Ⅲ」「韓国語Ⅳ」合計4単位

全学共通科目は自身の学習計画に沿って1～4年次までに履修してください。なお、基礎共通科目は、全学生が1年次で履修しなければなりません（各2単位・計6単位）。

■ クラス編成について

1. 基礎共通科目は指定されたクラスを受講してください。
2. 共通教養科目は基本的に春・秋学期に開講されていますが、同一科目を重複して履修することはできません。
3. 履修希望者が定員を超える場合には抽選を行い、受講者を決定します。
4. 健康・スポーツ科目群の実技科目は複数クラス開講され、それぞれ人数制限があります。種目内容についてはシラバスを確認してください。また受講希望者は、定期健康診断（4月実施）を必ず受診してください。
5. 語学科目には学習効果を高めるために、人数制限があります。

■ 履修前提条件について

下記の科目については履修するための前提条件があります。前提条件を満たさない場合には履修登録ができません。

| 授業科目名 | 授業形態 | 単位 | 履修前提条件 |
|-------------------|------|----|--------------------------|
| 中国語Ⅱ | 演習 | 1 | 「中国語Ⅰ」単位修得済 |
| 中国語Ⅲ | 演習 | 1 | 「中国語Ⅱ」単位修得済 |
| 中国語Ⅳ | 演習 | 1 | 「中国語Ⅲ」単位修得済 |
| 韓国／朝鮮語Ⅱ | 演習 | 1 | 「韓国／朝鮮語Ⅰ」単位修得済 |
| 韓国／朝鮮語Ⅲ | 演習 | 1 | 「韓国／朝鮮語Ⅱ」単位修得済 |
| 韓国／朝鮮語Ⅳ | 演習 | 1 | 「韓国／朝鮮語Ⅲ」単位修得済 |
| フランス語Ⅱ | 演習 | 1 | 「フランス語Ⅰ」単位修得済 |
| フランス語Ⅲ | 演習 | 1 | 「フランス語Ⅱ」単位修得済 |
| ドイツ語Ⅱ | 演習 | 1 | 「ドイツ語Ⅰ」単位修得済 |
| ドイツ語Ⅲ | 演習 | 1 | 「ドイツ語Ⅱ」単位修得済 |
| イタリア語Ⅱ | 演習 | 1 | 「イタリア語Ⅰ」単位修得済 |
| スペイン語Ⅱ | 演習 | 1 | 「スペイン語Ⅰ」単位修得済 |
| 問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ | 演習 | 1 | 「問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ」単位修得済 |

■ 単位認定科目について

各種の検定試験、資格試験で所定の成果を修めた場合は、関連する科目的単位を認定します。資格の証明書および印鑑を持参して、学修・生活支援課で手続きすることができます。

ただし、「**資格有効期限**」に留意してください。

①検定試験の資格有効期限は、申請時より36ヵ月以内に取得したものとします。

②資格試験の有効期限は資格発行団体により異なりますので、それに従ってください。

なお、卒業年次生は、卒業年度の1月までに申請してください。

● 英語

| 検定試験名・レベル | 認定科目（単位） | |
|--|----------|---------|
| 実用英語技能検定（英検）：2級以上 | 英語Ⅰ（1）※ | 英語Ⅱ（1）※ |
| 国際コミュニケーション英語能力テスト（TOEIC）：520以上 | 英語Ⅰ（1）※ | 英語Ⅱ（1）※ |
| Test of English as a Foreign Language（TOEFL）：iBT53以上 | 英語Ⅰ（1）※ | 英語Ⅱ（1）※ |

※いずれか一方を申請時に選択（1単位のみ認定可）。

● 中国語

| 検定試験名・レベル | 認定科目（単位） | |
|--------------------------------|----------|----------|
| 中国語検定：準4級 | 中国語Ⅰ（1） | — |
| 中国語検定：4級以上 | 中国語Ⅰ（1）※ | 中国語Ⅱ（1）※ |
| 漢語水平考試（HSK）：1級 | 中国語Ⅰ（1） | — |
| 漢語水平考試（HSK）：2級以上 | 中国語Ⅰ（1）※ | 中国語Ⅱ（1）※ |
| 中国語コミュニケーション能力検定（TECC）：200～279 | 中国語Ⅰ（1） | — |
| 中国語コミュニケーション能力検定（TECC）：280以上 | 中国語Ⅰ（1）※ | 中国語Ⅱ（1）※ |

※いずれか一方を申請時に選択（1単位のみ認定可）。

● 韓国／朝鮮語

| 検定試験名・レベル | 認定科目（単位） | |
|-----------------------|-------------|-------------|
| 韓国語能力試験：TOPIK I（1級） | 韓国／朝鮮語Ⅰ（1） | — |
| 韓国語能力試験：TOPIK I（2級）以上 | 韓国／朝鮮語Ⅰ（1）※ | 韓国／朝鮮語Ⅱ（1）※ |
| 「ハングル」能力検定試験：5級 | 韓国／朝鮮語Ⅰ（1） | — |
| 「ハングル」能力検定試験：4級以上 | 韓国／朝鮮語Ⅰ（1）※ | 韓国／朝鮮語Ⅱ（1）※ |

※いずれか一方を申請時に選択（1単位のみ認定可）。

● ドイツ語

| 検定試験名・レベル | 認定科目（単位） | |
|---------------------------|-----------|-----------|
| ドイツ語技能検定試験（独検）：5級 | ドイツ語Ⅰ（1） | — |
| ドイツ語技能検定試験（独検）：4級以上 | ドイツ語Ⅰ（1）※ | ドイツ語Ⅱ（1）※ |
| ゲーテ・ドイツ語検定試験：A1以上 | ドイツ語Ⅰ（1）※ | ドイツ語Ⅱ（1）※ |
| オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験：A1以上 | ドイツ語Ⅰ（1）※ | ドイツ語Ⅱ（1）※ |

※いずれか一方を申請時に選択（1単位のみ認定可）。

● フランス語

| 検定試験名・レベル | 認定科目（単位） | |
|--------------------------|------------|------------|
| 実用フランス語技能検定試験（仏検）：5級 | フランス語Ⅰ（1） | — |
| 実用フランス語技能検定試験（仏検）：4級以上 | フランス語Ⅰ（1）※ | フランス語Ⅱ（1）※ |
| デルフ・フランス語資格試験（DELF）：A1以上 | フランス語Ⅰ（1）※ | フランス語Ⅱ（1）※ |
| フランス語学力テスト（TCF）：A1以上 | フランス語Ⅰ（1）※ | フランス語Ⅱ（1）※ |
| フランス語能力認定試験（TEF）：69以上 | フランス語Ⅰ（1）※ | フランス語Ⅱ（1）※ |

※いずれか一方を申請時に選択（1単位のみ認定可）。

● イタリア語

| 検定試験名・レベル | 認定科目（単位） | |
|--------------------------|------------|------------|
| 実用イタリア語検定：5級 | イタリア語Ⅰ（1） | — |
| 実用イタリア語検定：4級以上 | イタリア語Ⅰ（1）※ | イタリア語Ⅱ（1）※ |
| イタリア語検定試験（PLIDA）：A1初級Ⅰ | イタリア語Ⅰ（1） | — |
| イタリア語検定試験（PLIDA）：A2初級Ⅱ以上 | イタリア語Ⅰ（1）※ | イタリア語Ⅱ（1）※ |

※いずれか一方を申請時に選択（1単位のみ認定可）。

● スペイン語

| 検定試験名・レベル | 認定科目（単位） | |
|---------------------------------|------------|------------|
| スペイン語技能検定：6級 | スペイン語Ⅰ（1） | — |
| スペイン語技能検定：5級以上 | スペイン語Ⅰ（1）※ | スペイン語Ⅱ（1）※ |
| 外国語としてのスペイン語検定試験（DELE）：A1（入門） | スペイン語Ⅰ（1） | — |
| 外国語としてのスペイン語検定試験（DELE）：A2（初級）以上 | スペイン語Ⅰ（1）※ | スペイン語Ⅱ（1）※ |

※いずれか一方を申請時に選択（1単位のみ認定可）。

6 カリキュラム表

| | 授業科目名 | 授業形態 | 単位 | 卒業単位 | 開講セメスター | 科目ナンバリング | 履修単位数 制限除外 科目 | 備考 |
|---------------|------------|------|----|-------|---------|----------|---------------------|----------------------------------|
| 基礎共通科目 | さがみ総合講座Ⅰ | 講義 | 2 | 必修 | 1 | XABAS101 | | 春学期のみ開講 |
| | さがみ総合講座Ⅱ | 講義 | 2 | 必修 | 2 | XABAS102 | | 秋学期のみ開講 |
| | 基礎教育講座 | 講義 | 2 | 必修 | 1 | XABAS103 | | 春学期のみ開講 |
| 教養科目群（人文科学） | 哲学 | 講義 | 2 | 2単位必修 | 1 | XAHUS101 | | |
| | 倫理学 | 講義 | 2 | | 1 | XAHUS102 | | |
| | 音楽 | 講義 | 2 | | 1 | XAHUS103 | | |
| | 美術 | 講義 | 2 | | 1 | XAHUS104 | | |
| | 書道 | 講義 | 2 | | 1 | XAHUS105 | | |
| | 文学 | 講義 | 2 | | 1 | XAHUS106 | | |
| | 言語学 | 講義 | 2 | | 1 | XAHUS107 | | |
| | 文化人類学 | 講義 | 2 | | 1 | XAHUS108 | | |
| | 臨床心理学入門 | 講義 | 2 | | 1 | XAHUS109 | | |
| 共通教養科目群（自然科学） | 数理の科学 | 講義 | 2 | 2単位必修 | 1 | XANAS101 | | |
| | 生命的科学 | 講義 | 2 | | 1 | XANAS102 | | |
| | 宇宙の科学 | 講義 | 2 | | 1 | XANAS103 | | |
| | 行動の科学 | 講義 | 2 | | 1 | XANAS104 | | |
| | 生活の科学 | 講義 | 2 | | 1 | XANAS105 | | |
| | 栄養の科学 | 講義 | 2 | | 1 | XANAS106 | | |
| | 基礎統計学 | 講義 | 2 | | 1 | XANAS107 | | |
| | 情報ネットワーク論 | 講義 | 2 | | 1 | XANAS108 | | |
| | 情報システム論 | 講義 | 2 | | 1 | XANAS109 | | |
| | 情報処理概論 | 講義 | 2 | | 1 | XANAS110 | | |
| 教養科目群（社会科学） | 法学 | 講義 | 2 | 2単位必修 | 1 | XASOS101 | | |
| | 日本国憲法 | 講義 | 2 | | 1 | XASOS102 | | |
| | 社会福祉行政論 | 講義 | 2 | | 1 | XASOS103 | | |
| | 経済学 | 講義 | 2 | | 1 | XASOS104 | | |
| | 社会学 | 講義 | 2 | | 1 | XASOS105 | | |
| | 現代教育論 | 講義 | 2 | | 1 | XASOS106 | | |
| | メディアと文化 | 講義 | 2 | | 1 | XASOS107 | | |
| | 日本の社会と文化 | 講義 | 2 | | 1 | XASOS108 | | |
| | 諸外国の社会と文化 | 講義 | 2 | | 1 | XASOS109 | | |
| 健康・スポーツ科目群 | 健康管理 | 講義 | 2 | 1単位必修 | 1 | XAHSS101 | | |
| | 身体の科学 | 講義 | 2 | | 1 | XAHSS102 | | |
| | 球技スポーツ | 実技 | 1 | | 1 | XAHSS103 | | バレーボール、バスケットボール、フットサル、フラッグフットボール |
| | ラケットスポーツ | 実技 | 1 | | 1 | XAHSS104 | | テニス、バドミントン、卓球 |
| | 健康スポーツ | 実技 | 1 | | 1 | XAHSS105 | | ダンス、合気道、ヨガ |
| | シーズンスポーツ | 実技 | 1 | | 1 | XAHSS106 | ○ | 宿泊を伴う屋外スポーツ |
| 社会人基礎力向上科目群 | 数理リテラシー | 講義 | 2 | 2単位必修 | 1 | XACAE101 | | |
| | 言語リテラシー | 講義 | 2 | | 1 | XACAE102 | | |
| | 情報リテラシーⅠ | 演習 | 1 | | 1 | XACAE103 | | |
| | 情報リテラシーⅡ | 演習 | 1 | | 1 | XACAE104 | | |
| | キャリアプランニング | 講義 | 2 | | 1 | XACAE105 | | |
| | ビジネス実務総論 | 講義 | 2 | | 1 | XACAE106 | | |

| | 授業科目名 | 授業形態 | 単位 | 卒業単位 | 開講セメスター | 科目ナンバリング | 履修単位数制限除外科目 | 備考 |
|------------------|---------------------|------|----|-----------------------|---------|-----------|-------------|--------------------------------|
| 語 学 科 目 | 英語 I | 演習 | 1 | 4 単位必修 | 1 | XAEENG101 | | 同一言語の I・II を 1つ以上修得すること。(※) |
| | 英語 II | 演習 | 1 | | 1 | XAEENG102 | | |
| | 英語 III | 演習 | 1 | | 1 | XAEENG103 | | |
| | 英語 IV | 演習 | 1 | | 1 | XAEENG104 | | |
| | 中国語 I | 演習 | 1 | | 1 | XACHI101 | | |
| | 中国語 II | 演習 | 1 | | 2 | XACHI102 | | |
| | 中国語 III | 演習 | 1 | | 3 | XACHI201 | | |
| | 中国語 IV | 演習 | 1 | | 3 | XACHI202 | | |
| | 韓国／朝鮮語 I | 演習 | 1 | | 1 | XAKOR101 | | |
| | 韓国／朝鮮語 II | 演習 | 1 | | 2 | XAKOR102 | | |
| | 韓国／朝鮮語 III | 演習 | 1 | | 3 | XAKOR201 | | |
| | 韓国／朝鮮語 IV | 演習 | 1 | | 3 | XAKOR202 | | |
| | フランス語 I | 演習 | 1 | | 1 | XAFRE101 | | |
| | フランス語 II | 演習 | 1 | | 2 | XAFRE102 | | |
| | フランス語 III | 演習 | 1 | | 3 | XAFRE201 | | |
| | ドイツ語 I | 演習 | 1 | | 1 | XAGER101 | | |
| | ドイツ語 II | 演習 | 1 | | 2 | XAGER102 | | |
| | ドイツ語 III | 演習 | 1 | | 3 | XAGER201 | | |
| | イタリア語 I | 演習 | 1 | | 1 | XAITA101 | | |
| | イタリア語 II | 演習 | 1 | | 2 | XAITA102 | | |
| | スペイン語 I | 演習 | 1 | | 1 | XASPA101 | | |
| | スペイン語 II | 演習 | 1 | | 2 | XASPA102 | | |
| | 海外語学集中講座 I | － | 2 | | － | XAIOS101 | | 外国語研修による認定科目 |
| | 海外語学集中講座 II | － | 2 | | － | XAIOS102 | | |
| | 海外語学集中講座 III | － | 2 | | － | XAIOS103 | | |
| | 日本語 I | 演習 | 1 | | 1 | XAJAP101 | | 履修者は日本語を母語と しない者に限る |
| | 日本語 II | 演習 | 1 | | 1 | XAJAP102 | | |
| 実 践 科 目 | 地域協働活動 | 実習 | 1 | | 1 | XACAE107 | ○ | |
| | さがみ発想講座 | 講義 | 2 | | 1 | XACAE108 | | |
| | ビジネスのための経済・経営学 | 講義 | 2 | | 1 | XACAE109 | | |
| | 問題発見・解決型プロジェクト実践 I | 演習 | 1 | | 5 | XACAE301 | ○ | |
| | 問題発見・解決型プロジェクト実践 II | 演習 | 1 | | 7 | XACAE401 | ○ | |
| 卒業必要単位数合計 | | | | 24 (栄養科学部管理栄養学科は22単位) | | | | |

(※) 卒業要件を満たすための履修例

- : 英語 I・II、韓国／朝鮮語 I、ドイツ語 I
- : 英語 I・II、韓国／朝鮮語 I・II
- × : 英語 I、韓国／朝鮮語 I、ドイツ語 I、フランス語 I

(注意)

全学共通科目は、春・秋の両学期ともに開講することを基本としていますが、年度によっては科目の開講期がどちらか一方になる場合があります。当年度の授業時間割表やシラバスで確認してください。

履修単位数制限除外科目とは、履修単位数制限（各学期24単位）が適用されない科目です。対象科目は履修登録を行っても登録単位数に算入されません。ただし、単位を修得すると卒業要件に定められた区分の修得単位数に算入されます。

相模女子大学共通教育機構規程

平成 20 年 9 月 10 日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、全学の教養教育の充実を図る観点から相模女子大学共通教育機構（以下「共通教育機構」という。）を学長のもとに設置し、その組織および運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 共通教育機構は、相模女子大学および相模女子大学短期大学部（以下「本学」という。）の教養教育実施機関として、本学の目的、使命に則り、全学の教員が担う教養教育を円滑に実施することを目的とする。

(任務)

第3条 共通教育機構は、前条に掲げる目的を達成するために次の任務を行う。

- (1) 全学共通科目等に関する教育の理念、目標に関すること
- (2) 全学共通科目等の教育課程の人事および編成・改編に関すること
- (3) 全学共通科目等の予算および決算に関すること
- (4) 共通教育機構の自己点検・評価・FDに関すること
- (5) その他教養教育の実施に関すること

(組織)

第4条 共通教育機構には、次の教員を置く。

- (1) 共通教育機構長
- (2) 各共通教育部会長
- (3) 客員教員
- (4) 共通教育機構長が必要と認めた者

(共通教育機構長)

第5条 共通教育機構長は副学長（教育担当）をもって充てる。

2 共通教育機構長の任期は、副学長（教育担当）の職を退いたときとする。

3 共通教育機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(共通教育機構運営委員会)

第6条 共通教育機構に、その管理運営に関する重要事項を審議するために共通教育機構運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第7条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 全学共通科目等に関する教育の理念、目標に関すること
- (2) 全学共通科目等の教育課程の編成および改編に関すること
- (3) 全学共通科目等を主として担当する専任教員および非常勤講師の人事に関すること
- (4) 共通教育機構の予算および決算に関すること
- (5) 共通教育機構の自己点検・評価・FDに関すること
- (6) その他共通教育機構の管理運営に関すること

(組織)

第8条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 共通教育機構長

- (2) 各共通教育部会長
 - (3) 学部および短期大学部選出委員の代表者 1名
 - (4) 学修・生活支援課長
- (任期)

第9条 前条第1号の委員は、前条に掲げる職を退いたときは、委員の資格を失う。

2 前条第2号、第3号および第4号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長および副委員長)

第10条 運営委員会に委員長を置き、共通教育機構長をもって充てる。

- 2 副委員長は、委員長を除く委員により選出する。
- 3 委員長は、運営委員会を招集し、その議事を主宰する。
- 4 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

(議事)

第11条 運営委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 運営委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(部会)

第12条 共通教育機構に、教養教育を円滑に実施するために、全学共通科目等を共通教育系列と課程に区分し、その区分ごとに部会を置く。

- 2 共通教育機構に置く部会は、次のとおりとする。
- (1) 人文科学系列部会
- (2) 社会科学系列部会
- (3) 自然科学系列部会
- (4) 語学教育系列部会
- (5) 健康教育系列部会
- (6) 情報教育系列部会
- (7) 教職課程部会
- (8) 司書・司書教諭課程部会

(任務)

第13条 部会は、次に掲げる任務を行う。

- (1) 教育課程の編成および実施に関すること
- (2) 時間割編成に関すること
- (3) 非常勤講師の採用計画に関すること
- (4) 自己点検・評価・FDに関すること
- (5) その他共通教育課程の実施に関して必要なこと

(部会長)

第14条 部会に、部会長を置く。

- 2 部会長は、当該部会に所属する教員から学長が任命する。
- 3 部会長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(部会会議)

第15条 部会長は、必要に応じ、部会会議を開催するものとする。

(所管)

第16条 この規程の改廃に関する事務は、学修・生活支援課が所管する。

(雑則)

第17条 この規程に定めるもののほか、共通教育機構に関し、必要な事項については、運営委員会の議を経て、共通教育機構長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成24年4月12日一部改正、平成24年4月1日から施行する。
- 3 平成24年5月10日一部改正、平成24年6月1日から施行する。
- 4 平成30年2月1日一部改正、平成30年4月1日から施行する。
- 5 令和元年9月5日一部改正、令和元年10月1日から施行する。

相模女子大学共通教育機構規程

平成 20 年 9 月 10 日
制定

(趣旨)

第1条 この規程は、全学の教養教育の充実を図る観点から相模女子大学共通教育機構（以下「共通教育機構」という。）を学長のもとに設置し、その組織および運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 共通教育機構は、相模女子大学および相模女子大学短期大学部（以下「本学」という。）の教養教育実施機関として、本学の目的、使命に則り、全学の教員が担う教養教育を円滑に実施することを目的とする。

(任務)

第3条 共通教育機構は、前条に掲げる目的を達成するために次の任務を行う。

- (1) 全学共通科目等に関する教育の理念、目標に関すること
- (2) 全学共通科目等の教育課程の人事および編成・改編に関すること
- (3) 全学共通科目等の予算および決算に関すること
- (4) **共通教育機構の自己点検・評価・FDに関すること**
- (5) その他教養教育の実施に関すること

(組織)

第4条 共通教育機構には、次の教員を置く。

- (1) 共通教育機構長
- (2) 各共通教育部会長
- (3) 客員教員
- (4) 共通教育機構長が必要と認めた者

(共通教育機構長)

第5条 共通教育機構長は副学長（教育担当）をもって充てる。

2 共通教育機構長の任期は、副学長（教育担当）の職を退いたときとする。

3 共通教育機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(共通教育機構運営委員会)

第6条 共通教育機構に、その管理運営に関する重要事項を審議するために共通教育機構運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第7条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 全学共通科目等に関する教育の理念、目標に関すること
- (2) 全学共通科目等の教育課程の編成および改編に関すること
- (3) 全学共通科目等を主として担当する専任教員および非常勤講師の人事に関すること
- (4) 共通教育機構の予算および決算に関すること
- (5) 共通教育機構の自己点検・評価・FDに関すること
- (6) その他共通教育機構の管理運営に関すること

(組織)

第8条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 共通教育機構長

- (2) 各共通教育部会長
 - (3) 学部および短期大学部選出委員の代表者 1名
 - (4) 学修・生活支援課長
- (任期)

第9条 前条第1号の委員は、前条に掲げる職を退いたときは、委員の資格を失う。

2 前条第2号、第3号および第4号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長および副委員長)

第10条 運営委員会に委員長を置き、共通教育機構長をもって充てる。

- 2 副委員長は、委員長を除く委員により選出する。
- 3 委員長は、運営委員会を招集し、その議事を主宰する。
- 4 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

(議事)

第11条 運営委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 運営委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(部会)

第12条 共通教育機構に、教養教育を円滑に実施するために、全学共通科目等を共通教育系列と課程に区分し、その区分ごとに部会を置く。

- 2 共通教育機構に置く部会は、次のとおりとする。
- (1) 人文科学系列部会
- (2) 社会科学系列部会
- (3) 自然科学系列部会
- (4) 語学教育系列部会
- (5) 健康教育系列部会
- (6) 情報教育系列部会
- (7) 教職課程部会
- (8) 司書・司書教諭課程部会

(任務)

第13条 部会は、次に掲げる任務を行う。

- (1) 教育課程の編成および実施に関すること
- (2) 時間割編成に関すること
- (3) 非常勤講師の採用計画に関すること
- (4) 自己点検・評価・FDに関すること
- (5) その他共通教育課程の実施に関して必要なこと

(部会長)

第14条 部会に、部会長を置く。

- 2 部会長は、当該部会に所属する教員から学長が任命する。
- 3 部会長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(部会会議)

第15条 部会長は、必要に応じ、部会会議を開催するものとする。

(所管)

第16条 この規程の改廃に関する事務は、学修・生活支援課が所管する。

(雑則)

第17条 この規程に定めるもののほか、共通教育機構に関し、必要な事項については、運営委員会の議を経て、共通教育機構長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成24年4月12日一部改正、平成24年4月1日から施行する。
- 3 平成24年5月10日一部改正、平成24年6月1日から施行する。
- 4 平成30年2月1日一部改正、平成30年4月1日から施行する。
- 5 令和元年9月5日一部改正、令和元年10月1日から施行する。

| | | | |
|----------|-----------------------|-------|----------|
| 大学等名 | 相模女子大学 | 申請レベル | リテラシーレベル |
| 教育プログラム名 | 数理・データサイエンス・AI教育プログラム | 申請年度 | 令和6年度 |

取組概要

【目的】

学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成すること、並びに、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を推進することを目的とする。

【プログラムで身に付けられる能力】

ICT（情報通信技術）やAI技術の急激な発展・普及に、正しい知識を持って対応できるようになる。データに基づいて現状を理解でき、新しい価値を生み出すための基礎として、「データを適切に読み解ける」、「データに基づいて適切に説明できる」、「データを適切に扱える」能力を身に付ける。

【修了要件】

全学共通科目「数理の科学」(半期2単位)の修得をもって、プログラムの修了要件としている。「数理の科学」の内容は「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」(数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)に準拠しており、各回、対面形式で開講するとともに、授業支援ツール（LMS）を用いて事前・事後学修の支援をしている。

【実施体制】

- ◆ プログラムの運営責任者：副学長（教育担当）
- ◆ プログラムを改善・進化させるための組織・委員会等：共通教育機構運営委員会
- ◆ プログラムの自己点検・評価を行う組織・委員会など：共通教育機構運営委員会

【科目構成】

| 授業科目 | 単位数 | 必須 |
|-------|-----|----|
| 数理の科学 | 2 | ○ |

